

2019年5月19日

福音書からのメッセージ

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。（ヨハネによる福音書13章34節）

今日の箇所に限らず、聖書には「愛」という言葉が非常に多く出てきます。しかし聖書で用いられている「愛」の意味は、日本語のイメージとは少し違っています。

新約聖書の前語、ギリシア語には、愛を表す四つの言葉があります。一つは異性への愛、肉体的な愛を表す「エロース」、二つ目は家族間の愛情、特に親子間の愛を示す「ストルゲー」、三つ目は友情や夫婦間の愛に用いられ、「いつくしむ」とも訳される「フィリア」。そして四つ目、新約聖書の中で最も多く用いられている「神の愛」を指す言葉が、「アガペー」です。「アガペー」は、相手の幸せを思う無償の愛であり、神さまの本性です。そして今日使われている愛も、このアガペーです。

無償の愛とは、見返りを求めない一方的な愛のことです。神さまがわたしたちに与えられているシャワーのように浴びせられる愛を、あなたがたもお互いに与えあいなさい。それがイエス様の新しい掟だということです。これをわたしたちはどのように受け取ればよいのでしょうか。

この話をされる前、ヨハネ福音書13章の冒頭には、このように書かれています。

イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

そして愛する弟子たちにイエス様がなされたのは、弟子たちの足を洗うという行為でした。通常、人の足を洗うのは、奴隷がすることです。先生と呼ばれる立場にあったイエス様が弟子の足を洗うことは、考えられない出来事でした。しかしイエス様



はそうなさった。愛するということだ、自らの手を使って示さ

れたのです。

聖書の他の箇所には、「敵を愛しなさい」という命令もあります。わたしたちにとって、敵を愛することと互いに愛することとは、どちらが難しいでしょうか。ある人はこう言います。「敵を愛する方が簡単だ」と。わたしたちが「敵」だと感じている人がいたとしても、関わらなければいいのです。

しかし「互いに愛し合いなさい」と言われたときに、わたしたちはイエス様がなされたように見返りを求めずに、今、とにりにいる人に関わり、徹底的に大切にできるのかと考え込んでしまいます。それは日常の様々な場面で、そうできない自分の姿と出会ってしまうからです。わたしには愛することができない。それよりも憎んでしまう。悲しいけれども、そのような自分がいるのです。

しかしイエス様は招かれます。愛の関係の中のように、わたしたちを導かれます。イエス様は足を洗うという行為を、わたしたちの愛の形として示されました。そのように互いに関わっていきましょう。それがイエス様の与えられた新しい掟なのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>